



:。*

:*:☆: 大阪府細胞検査士会 メールジャーナル

:。 2024年3月号

.:*:☆:。



:☆★:☆★*:☆★*:☆★*:☆★*:☆★*:☆★*:☆★*:☆★*:☆★*:☆★*:☆★*

【目次】

◆ 1 <お知らせ>

◆ 2 <会員コラム>

近畿大学病院 病院病理部
上杉 忠雄

◇ 編集後記

深田 知也

:★☆:★☆*:★☆*:★☆*:★☆*:★☆*:★☆*:★☆*:★☆*:★☆*:★☆*:★☆*

☆ ~~~~~

★ ◆ 1 <お知らせ>

☆ ~~~~~

★ 1) (再掲) 第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会 in 大阪 のお知らせ(日本臨床細胞学会主催)

☆ 2) (再掲) 第 73 回医学検査学会 in 金沢 のお知らせ(日臨技主催)

★ 3) 細胞診定期講習会のお知らせ(大臨技主催)

1) (再掲) 第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会 in 大阪 のお知らせ(日本臨床細胞学会主催)

【日程】 2024 年6月7日(金)～9日(日)

【開催方法】 現地開催及び事後オンデマンド配信

プログラム、参加方法につきましてはお手数ですが、下記 URL よりご参照ください。

<http://jscc65.umin.jp/outline/index.html>

2) (再掲) 第 73 回医学検査学会 in 金沢 のお知らせ(日臨技主催)

【日程】 2024 年5月 11 日(土)～12 日(日)

【開催方法】 現地開催及び事後オンデマンド配信

プログラム、参加方法につきましてはお手数ですが、下記 URL よりご参照ください。

<https://convention.jtbcom.co.jp/73jamt/join/index.html>

3) 細胞診定期講習会のお知らせ(大臨技主催)

好評の細胞診定期講習会、今年もシリーズ開催が決定しました！4月は「細胞診総論、子宮頸部」、5月初旬には「子宮体部・卵巣」の細胞診について基礎から実践的知識まで幅広く、第一線でご活躍の現役細胞検査士の先生にご講演いただきます。悩

ましい婦人科領域の細胞診について、今年細胞検査士を目指す方はもちろんのこと、細胞診業務に携わっておられる方の卒後教育にも役立つ内容となっています。ZoomによるWEB講演会ですので自宅や職場から視聴可能です。皆様、どうぞ奮ってご参加ください。

【内容】① 細胞診総論・子宮頸部細胞診

講師:大阪市立総合医療センター 医療技術部 内山 勲

② 子宮体部・卵巣の細胞診

講師:大阪府済生会野江病院 病理診断科 城戸 貴之

【日時】① 細胞診総論・子宮頸部細胞診 2024年4月26日(金)18:45~20:15(受付18:30~)

② 子宮体部・卵巣の細胞診 2024年5月10日(金)18:45~19:45(受付18:30~)

【開催方法】Web開催(Zoomを用いたライブ配信)

【評価点】①②それぞれ 専門教科 20点

【参加費】会員 500円 非会員 1000円

【定員】90名(先着順)定員になり次第終了します。

【申込期間】① 2024年4月5日(金)0:00~2024年4月26日(土)18:30

② 2024年4月19日(金)0:00~2024年5月10日(金)18:30

【申込方法】

①大臨技 病理細胞検査部門 細胞診定期講習会「細胞診総論・子宮頸部細胞診」(WEB講習会)

2024年4月26日(金)18:45~20:15 Zoom開催

<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/02dmc2khatm31.html>

②大臨技 病理細胞検査部門 細胞診定期講習会「子宮体部・卵巣の細胞診」(WEB講習会)

2024年5月10日(金)18:45~19:45 Zoom開催

<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/02c1h52rbtm31.html>

★ ~~~~~

☆ ◆ 2 <会員コラム>

★ 「46年間の記憶に残る思い出」

☆ ~~~~~

★ 近畿大学病院 病院病理部
上杉 忠雄

この3月末退職予定で入職して46年あっという間に過ぎ、今振り返れば走馬灯のように思い出されます。

思い返せば入職(1979年)して初めての仕事といえば剖検介助で、入職したその日に病理医の手ほどきを受けながら無我夢中で介助をしたことが、鮮明に思い出されます。この年は剖検数が200体近くあり、四六時中剖検介助をした記憶が残っています。当時剖検は365日、24時間体制で受け入れており、なかには1日に3体の剖検や、脳、延髄～馬尾までの脊髄の取り出しや、後にエイズ、ヤコブ病の剖検もあり緊張によりクタクタに疲れた覚えがあります。

次に驚いたことは、薄切標本用の刃の研磨でした。当時は一本刃(長さ20cm～30cm)を使用しており、各々で大きな砥石(約20cm×25cm)により1～2時間研磨した後仕上げに革砥で磨きあげていました。前日に研磨を行い翌日薄切するのですが、上手く研磨していないと、刃の切れ味が悪く薄い標本が出来なく仕事にならず、すぐその場で先輩の薄切を横目で見ながら研磨をし直した苦い経験を思い出します。また石灰化や骨等による刃先の傷は顕微鏡下(対物×4)においてマジックで印を付けて、その場所を外して標本に傷が入らない様に薄切したことを思い出します。一度付けた刃の傷は1～3ヵ月間研磨しないと修復できなく大変苦勞しました。それから1年後フェザーの替え刃式マイクロームの導入が始まり、なんとごく薄くスムーズに薄切ができ、刃先の傷も気にせずストレスのない仕事の仕上がりは、まるで魔法の杖(刃)の様に思い出されました。このフェザーの替え刃は病理業務の効率化に多大なる功績を残したように私は思います。

またある日突然！教授にエオジンの色に艶が無い??と頭ごなしに怒られた事が今でも忘れられない記憶に残っています。当時新人の私は恐れ多くて教授に対して艶の無い理由など聞けるはずもなく今でもその理由はわかりませんが、今思うに当時の

水道水は結構なカルキを含んでおりヘマトキシリンの色出しで脱色され過ぎて標本のコントラストが崩れたのではないかと思われ出されます。(色や艶の世界は奥が深いです！) 当時試しでヘマトキシリンで染色された標本を水道水に 10 分間ほど浸しておくと、もの見事に脱色され白い標本になった事を今でも鮮明に覚えて、後に浄水器を設置したことを思い出されます。

最近では、当時に比べ HE 染色や免疫染色等の自動化が進み昔の手染め標本と比べ遜色のない仕上がりで、その上染色の標準化が行われより精度の高い技術となり、今後ますます病理、細胞分野の技術がどのように発展するのか楽しみで、まるで私は浦島太郎の心境に陥りそうです。

また私は、しつこく昨年末に細胞検査士の資格更新を行いましたので、何処かでお目にかかる機会があればその節は何卒、手柔らかにご指導のほどよろしくお願い致します。

最後になりましたが、長年に渡りこの仕事に携わってこられたのもひとえに病理部関係の皆様のおかげであり、このコラムの場をお借りして心より御礼申し上げます。

◇◇ 編集後記 ◇◇

深田 知也

今年度も早いもので後わずかとなりました。季節の変わり目ですのでしっかりと栄養と休息をとって暖かい春に備えましょう。来年度も当会をよろしくお願い致します。

2024 年 3 月 20 日

※メールジャーナル登録アドレスの変更や問い合わせ等につきましては、下記メールアドレスへご連絡ください。

osakaactshomubu@gmail.com

※メールジャーナル関係以外の問い合わせにつきましては、大阪府細胞検査士会事務局あて下記メールアドレスへご連絡ください。

osaka-kensashi@osakacity-hp.or.jp